

■（１０２）野鳥の観察？ いえ、選挙の開票所取材です

米大統領選挙はオバマ氏の再選で終わった。開票は日本時間の７日朝から午後にかけて。日本の新聞は、夕刊の締め切り時刻をにらみながらの難しい編集作業を迫られた。

日本国内の選挙では、開票が始まった直後に電子新聞やテレビの選挙速報で「当選確実」が流れることがある。選挙管理委員会がまだ集計もしていない段階なのに、だ。

開票所に行くと、双眼鏡を使って開票作業をのぞく人たちを見かけることがあるだろう。まるで、日本野鳥の会メンバーがステージから観客席の紅と白の数を数えていたかつてのＮＨＫ紅白歌合戦のようだ。実はこれも選挙取材。開票は通常、投票箱から投票用紙を卓球台のような開票台に出してから、人手で候補者別に仕分けていく。その手元をのぞき、各候補者の票数を独自に数えてみる。複数の開票台のデータをまとめると、一定の傾向がみえてくるからだ。開票所は誰でも入れる。運がよければ、選挙とメディアを同時に社会見学できるかもしれない。

米大統領選は、ほとんどが電子投票とマークシート方式での機械集計なので、この「バードウォッチング方式」は通用しない。開票作業は楽だが、どこか味気ないような…。

（山）